

## 社会科学授業案

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-08-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 勝又, 悠太 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10297/00026741">http://hdl.handle.net/10297/00026741</a>

# 社会科授業案

授業者 勝又 悠太

- 1 日時 平成30年10月12日(金) 第2時 11:20~12:10
- 2 学級 1年B組 (1年B組教室)
- 3 題材名 「同じ空の下で働く子どもたち」  
ーアフリカ州の地域的特色を「児童労働問題」から捉えるー

## 4 題材の目標

アフリカ州の児童労働問題について、多面的・多角的に追求し、児童労働問題を取り巻く社会的事象の関連性を語り合う活動を通して、アフリカ州の地域的特色を捉え、これからのアフリカ州の発展のあり方や先進諸国のかかわりについて考えを深める。

## 5 題材観

(1) アフリカ州を「児童労働問題」から学ぶ価値

### ①アフリカ州の「児童労働問題」



このイラストは、ミッフィーで知られる絵本作家、グラフィックデザイナーのディック・ブルーナさんのイラストです。ミッフィーの愛らしい姿とは異なり、大きな板をもつ少年は一粒の涙を流して

います。

私がこの不思議なイラストを目にしたのは、J3のサッカー観戦の際に配布されたNGO団体児童労働ネットワーク(CL-Net)の活動を紹介するリーフレットの中でした。そのリーフレットには、このイラストと共に、「ストップ!児童労働キャンペーン」のタイトル。その下には、実に世界の子ども10人に1人が学校に通わず、過酷な重労働をしているという内容の記事と子どもたちの写真が載せられており、思わず隣に座って好きなサッカーチームを応援している娘の姿に目がうつってしまいました。

児童労働という言葉から、多くの人はどのような場面が頭に浮かぶでしょうか。ニュースの映像や様々なメディアの情報から、どこか遠くの貧しい国で、教育を受けずに働いている子どもたちの姿を想像し、それはアフリカ州やアジア州、南アメリカ州の一部の国の問題であると認識しているのではないのでしょうか。特にアフリカ州については、多くの人が貧困を背景とした児童労働が絶えない地域と認識していることでしょう。

それでは、多くの人が認識していながらも改善が見られないのはなぜでしょうか。あまりに長くそして根深いアフリカ州の貧困問題に対して、開発途上国では当たり前に見られる問題であり、仕方のないことと捉えている人もいるかもしれません。自分とは無関係と考えている人も少なくはないでしょう。遠く離れた先進国の日本に住む我々にとっては、なおさらです。その一方で、アフリカ州で初めて開催された2010年南アフリカワールドカップを始めとして、アフリカ州にも発展の兆しが見え、貧困問題は解消されつつあるとの見方もあります。先進諸国の中には、アフリカ州に眠る豊富な資源に目をつけ、大きなビジネスチャンスを見だし、積極的な資本投資や人材派遣、企業進出を図っている国もあります。しかし、経済発展が目覚ましい国や地域のすぐそばでは、やはり貧困に苦しむ国や地域も数多く存在します。むしろ、アフリカ州の中では富裕層と貧困層との格差が広がりつつあるという新たな問題も生まれてきています。加えて、先進国との貿易や経済協力が対等な形で実現されているとは言えません。かつて欧米諸国を始めに、他国に植民地支配された歴史と同様に、資源供給や市場としての価値でしか扱われないのではないかとということも危惧されています。

以上のようなアフリカ州に見られる貧困や格差といった問題は、様々な社会的事象が複雑に絡み合った簡単には解決し難い問題です。しかも、その問題の最大の被害者こそ、アフリカ州に住む子どもたちなのです。子どもたちが働く姿に目を背け、問題の困難さを目の前に立ち尽くすだけでは、解決はもちろんのこと、改善へ向かうことはないでしょう。

## ②「児童労働問題」を主題に設定した理由

アフリカ州の地域的特色を学ぶ際の主題として「児童労働問題」を設定します。その理由は次の三点です。

第一に、「児童労働問題」を追求することによりアフリカ州の地域的特色を見いだすことができる点です。アフリカ州の児童労働者数は増加傾向にあり、地域が抱える大きな問題となっています。「児童労働問題」について追求していくことで、アフリカ州の地域的特色（自然環境・経済・歴史文化）を関連づけて学習することができます。子どもたちは地域的特色を関連づけて、様々な社会的事象に気づき、問題の難しさや複雑さを実感していくことが期待できます。

第二に、同じ年代の子どもが問題の中心にあり、自分事として捉えやすい点です。自分と同じ年代の子どもたちが学校に行くことができず、危険な労働をする姿を目の当たりにすると、当たり前のように子どもを働かせている大人たちの態度に疑問や憤りを感じ、自分事として捉えることでしょう。子どもが働いているという現実と自分の生活につながりを感じる子どもも現れるかもしれません。

第三に、「児童労働問題」がその地域だけの課題ではなく地球的課題と言える点です。この問題はアフリカ州だけで解決できるものではありません。さらに、問題の原因は、先進諸国のかかわり方にあるという見方もできます。だからこそ、日本に住む私たちが、アフリカ州の発展のあり方やこれからのかかわり方を考えたりするきっかけになりえるのではないのでしょうか。

### (2)「児童労働」の現状と問題点

児童とは、国連子どもの権利条約の定義によると、18歳未満の子どもを指し、児童労働は、国際的なきまりや各国の法律で禁止されています。

国際労働機関（ILO）は、4年に一度、世界の児童労働者数の推計を発表しており、2017年9月に発表した報告書によると、2016年時点の児童労働者数（5歳～17歳）は、1億5200万人と推計されています。これは世界の子どもの「10人に1人」にあたります。さらに、児童労働者の半数近くの7300万人が、危険労働に従事していると言われています。

世界の児童労働者の約半分は、アフリカ州に存在し、労働者のおよそ「5人に1人」が児童労働者です。2013年の発表では、最も児童労働者数が多い地域はアジア太平洋地域だったのですが、改

善のスピードが速く、逆にアフリカ州は悪化の一途をたどっています。

児童労働の産業別割合は、農林水産業（第一次産業）が70.9%で圧倒的に多いです。コーヒーや紅茶、ゴム、タバコなどのプランテーション（大規模農場）で労働者として雇われていることもあれば、家族が貧しい農家で、カカオやコットンなどの換金作物や食糧となる作物を生産して、生活を支える子どもたちもいます。金や希少金属などを採掘する鉱山労働や漁業などもこの分野に含まれます。その他の産業は、工業（第二次産業）が11.9%、サービス業（第三次産業）が17.2%となっています。

児童労働の問題点として考えられるのは、次の三点です。

第一に、「子どもが心と身体に受けるダメージが大きい」という点です。児童が従事している仕事のほとんどは、肉体労働や同じ動作を際限なく繰り返す単純作業です。さらに、殺虫剤や農薬など毒性の強い化学薬品に常時さらされている状態です。その影響で、運動能力や集中力、記憶力への多大なダメージを与えるとの研究報告も出ています。児童労働は、子どもが一人の人間として健全に成長することの妨げとなっています。

第二に、「教育を受けられない」という点です。適切な教育で知識や能力が身につくことによって、職業選択の幅も広がり、自分の努力によって貧しさから脱することも可能です。しかし、労働を強いられている子どもたちは、生きていくために必要で基礎的な知識や能力を身につけるきっかけすら与えられていないというわけです。また、ユニセフの報告の中には、女子の識字率が上がることで、地域や社会全体が変わる効果があり、次世代にその効果につながると言われています。教育は社会をつくる基盤であり、それがなされないことは社会全体としての成長の可能性を奪っているとも言えます。

第三に、「人としての自由を奪う」という点です。毎日働かなければならない子どもたちには、ゆっくり休んだり遊んだりする時間がほとんどありません。その究極が全ての自由を奪われてしまう奴隷状態の労働です。奴隷制度はなくなったと考える人も多いかもしれませんが、奴隷のような状態で働かされている大人や子どもは依然として世界中に存在します。さらには、所有物とみなされ、適切な賃金が支払われず、中には売り買いの対象となることもあります。

### (3) 貧困の背景

多くの問題を含んでいるのにもかかわらず「児童労働問題」は、なぜなくなるのでしょうか。貧困が原因であることは明らかです。その背景として、次の四点があると考えられます。

#### ①アフリカ州が歩んだ歴史

15世紀末に始まる、近代植民地支配という歴史は、現在にまで続く貧困に大きく影響していると言えます。当初、スペイン・ポルトガル・オランダが植民地を拡大しました。その後、18世紀にイギリスで起こった産業革命を経て、フランスやドイツなどが進出し、資本主義の思想のもと、植民地支配が再編成されました。つまり、資本主義的生産を目的に、必要な原材料の確保や大量生産される商品の市場を確保するために、列強諸国が植民地として支配を強めていきました。このような欧米諸国を中心とする一握りの北の国々が、アフリカ州を代表とする南の国々や地域を植民地として支配した資本主義のしくみや宗主国への利益のみを考えたしくみが、現在に至るまでの北と南の格差を生み出すことになったわけです。その植民地をめぐる争いの中で、民族が分断され、言語が限定され、時には列強の国同士の戦いにも否応なしに巻き込まれていきました。

#### ②経済・貿易・資源

一つの一次産品に頼ったモノカルチャー経済の国が多いという経済的特徴も貧困の原因として挙げられるでしょう。天候不良や価格の値下がりたびに、国の経済は不安定となります。価格の決定権は輸入国である先進国にあり、加工された製品は、安定した価格で先進国の消費者に提供されています。つまり、アフリカ州の生産者の利益は考慮されず、公平な貿易がなされていないとも言えます。また近年では、豊富な鉱産資源を求める外国の企業に広大な土地が購入され、利用されることで、以前よりその土地に暮らしていた人々の生活が脅かされるという問題も起こっています。豊富な資源の開発は、国に利益をもたらす可能性を秘めていますが、適正な貿易を妨げ、その土地に暮らす人々の生活を保障することができていない現状もあります。

#### ③気候・自然環境

アフリカ州は、南北に長い広大な大陸です。緯度で表すと北は日本の茨城県、南はオーストラリアのシドニーほどの範囲に収まります。そのよう

な地域ゆえに、多様な気候が存在します。また、世界最大のサハラ砂漠を大きな境界線とし、北と南に大きく分けることもできます。その広大さと多様さゆえに、様々な分野でアフリカ州が地域としてまとまることを難しくしています

また、内陸国も多く、他国と海洋貿易を行いにくいという点も発展の妨げとなっています。そのうえ、輸送用道路や空港などのインフラ整備も十分に行き届いていません。内陸国の貧困が目立つのは、以上のようなことが原因と考えられます。

#### ④内戦・紛争・政治

内戦や紛争による経済的損失は、莫大な金額となります。経済的損失以上に大きいのは人的損失でしょう。2016年に1000人以上が死亡した紛争が圧倒的に多いのは、アフリカ州です。内戦や紛争、クーデターが頻繁に起こる国内情勢により、経済的成長を妨げるどころか大きく後退させてしまうことは容易に想像できます。政治的な不安定さも、治安の悪化につながり、国際的な秩序すら守れない状況となります。そのような国の状況では、子どもたちが一番の被害者となります。時には銃を手手に戦場に駆り出されることもあります。いくら国際的なルールがあったとしても、国内情勢が不安定な国は、貧困から抜け出そうという思考に至るわけがありません。内戦や紛争の原因の複雑さも、解決し難いものとして立ちはだかっています。

これまで述べたように、本題材で主題に設定するアフリカ州の「児童労働問題」は、様々な社会的事象が複雑に関連しています。そのため、簡単には解決し難い問題として、現在まで続いているのです。

#### (4) 本題材で味わう社会科ならではの文化

本題材において子どもたちが味わう社会科ならではの文化を、「アフリカ州の児童労働問題について、多面的・多角的に追求し、様々な視点から対話すること」とします。子どもたちは、社会科ならではの文化を味わいながら、様々な社会的事象とアフリカ州の地域的特色の関連性について語り合うことでしょう。様々な視点で対話する中で、同じ資料の読みとりにしても、視点が異なり、解釈や考え方にズレが生じるかもしれません。そのような場合でも、相手の視点から考えることや立場を変えて考えることで、問題の本質や自分一人では見いだせなかった価値観に気づき、互いの価

値観について語り合う姿が見られると考えます。

### (5) 題材と子どもたち

アフリカ州に対して、ニュースや新聞で見聞きしたわずかな知識しかない子どもたちは、同じ年代の子どもがカカオ農園で働く現実を目の当たりにすることで、自分たちの生活とのギャップに驚嘆し、自分の問題として捉え、解決に向けて様々な思いをもつことでしょう。だからこそ、子どもたちは問題の原因を多面的・多角的に追求し、考えの根拠や互いの価値観について対話する姿が見られると考えています。

本題材の学習を進めていくと、子どもたちは、アフリカ州の児童労働問題が、簡単には解決し難い問題であることに気づいていきます。しかし、難しい問題であるからこそ、「解決するための手ではないだろうか」「アフリカ州にとってよりよい発展とは、どのようなものか」について、さらに追求していく姿にまで至ることを期待しています。このようによりよいあり方を追求し続けることは、すべての人にとってよりよい社会にしていくために行動する「社会を創る人」を育むことにつながると信じています。

参考文献：北川清 他(2013)『帝国書院地理シリーズ 世界の国々5 アフリカ州』 帝国書院  
岩附由香 他(2007)『わたし8歳、カカオ畑で働きつづけて』 合同出版  
白木朋子(2015)『子どもたちにしあわせを運ぶチョコレート』 合同出版  
ポールコリア(2008)『最底辺の10億人』 日経BP社  
平野克己(2014)『アフリカ完全読本』 総合図書

参考資料：児童労働ネットワーク(CL-Net) <http://cl-net.org/>  
国際労働機関(ILO) [http://www.unic.or.jp/info/un/unsystem/specialized\\_agencies/ilo/](http://www.unic.or.jp/info/un/unsystem/specialized_agencies/ilo/)

## 6 新学習指導要領との関連

### (2) 世界の諸地域

次の①から⑥までの各州を取り上げ、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下のア及びイの事項を身に付けることができるよう指導する。

#### ③アフリカ

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解すること。

(イ) ①から⑥までの世界の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) ①から⑥までの世界の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。

## 7 題材構想(全7時間)

- |   |
|---|
| (1) チョコレートに隠された真実から、児童労働問題と出会い、問いをもつ(1時間)         |
| (2) 児童労働問題の原因を資料から予想し、調査活動の視点を見いだす(1時間)           |
| (3) それぞれの調査活動の視点から、問いに対して、自分の考えをもつ(2時間)           |
| (4) 調査した内容を共有し、問いに対して、関連性を見いだしながら語り合う(2時間:本時はその2) |
| (5) 題材をふり返り、これからのアフリカ州に対して自分たちにできることを考える(1時間)     |

### (1) チョコレートに隠された真実から、児童労働問題と出会い、問いをもつ(1時間)

授業者は、カカオ濃度の異なる数種類のチョコ

レートを提示します。子どもたちがチョコレートを囲み集まったところで、数種類のチョコを食べ比べてみようとなげかけます。すると、多くの子どもたちは、その味の違いがカカオ濃度によるも

のだと気づくことでしょう。そこで、カカオの実際の写真とカカオ豆の主な産地と消費地を示した資料を提示し、ガーナのカカオ農園で働く子どもの映像を見せます。先ほどまで、チョコレートのおいしさに興奮気味だった子どもたちは、同じ年代の子どもが働く映像を見て、次のような感想をもち、様々な疑問を口にするでしょう。

- ・私たちは、何も考えずにチョコレートを食べている場合ではないかもしれない
  - ・カカオ農園で働く人が、幼い子どもだとは知らなかった
  - ・高い木に登って実をとるような危険な仕事を子どもがやっているのはなぜだろう
  - ・農園主は、子どもたちが働いていることを当たり前前に思っているのはありえないことだ
  - ・自分たちが採取しているカカオの実が、チョコレートになることを知らないで働いているのはかわいそう
  - ・なぜ、親は働くことができないのだろうか
  - ・親や農園主などの大人たちは、子どもが働くことに疑問を思わないのだろうか
  - ・なぜ、学校に行きたいと思っているのに、学校に行くことができないのだろうか
  - ・生きていくためには、子どもが働かなければならないのは仕方がないことなのか
  - ・日本を始めとする先進国は、この状況にどのようにかかわっているのだろうか
  - ・チョコレートは、先進国が主な消費地だ。どのような貿易をしているのだろうか
- など

チョコレートに隠された真実を知った子どもたちに、児童労働の推移を示した資料と子どもの権利条約の4つの権利を示した資料を提示します。

### 【児童労働の推移 世界全体（5 - 17 歳）】



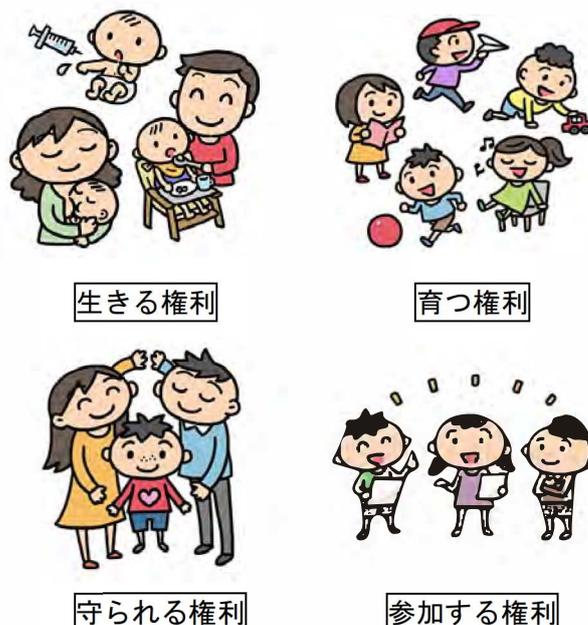
(Global Estimates of Child Labour: Results and trends, 2012-2016 国際労働機関)

### 【児童労働の推移 地域別 2016（5 - 17 歳）】

地域	児童労働者数 (千人)	児童労働者世界全体に占める割合	子ども人口に占める割合
アフリカ	72,113	47.6%	19.6%
アラブ諸国	1,162	0.8%	2.9%
アジア・太平洋	62,077	40.9%	7.4%
南北アメリカ	10,735	7.1%	5.3%
ヨーロッパ 中央アジア	5,534	3.6%	4.1%

(Global Estimates of Child Labour: Results and trends, 2012-2016 国際労働機関)

### 【子どもの権利条約の4つの権利】



(Unicef HP より抜粋)

すると子どもたちは、映像の感想をふまえながら、資料を読みとり、次のように語り合おう。

- ・世界的にみると、約1億5200万人も、子どもが働いている。これは、世界の子どもの10人に1人の割合だ
- ・2000年から比べると、約1億人減少している
- ・しかし、アフリカ州だけを見ると、19.6%もいる。つまり、約5人に1人だ。むしろ、状況は悪化しているという見方ができる
- ・児童労働は、子どもの権利条約の内容と合っていない。教育を受けられなかったり、命が守られなかったりしている
- ・子どもが働いている状況を減らすのは、世界全体で取り組むべき課題だ
- ・世界は、子どもが働くのはおかしいということを理解しているのに、なぜなくなるのだろうか

など

上記のように、子どもたちは、「児童労働問題」が世界全体で解決すべき課題であることを共通認識し、問題の背景を明らかにしていきたいという思いをもつことでしょう。ここまでの語り合いを通して、「なぜ、アフリカ州では児童労働がなくなるのか」という問いを全体で共有します。

## (2) 児童労働問題の原因を資料から予想し、調査活動の視点を見いだす（1時間）

授業者は、「なぜ、子どもが働かなければならないのか」と問います。すると子どもたちは次のような発言をします。

- ・親が貧しく、学校に行かせるお金がないから
  - ・家計を助けるために、子どもは重要な労働力だから
  - ・国自体が貧しいため、教育を整備する予算がないから
- など

親や国、社会が貧困であるという内容の発言に着目し、児童労働問題の根本的な原因が貧困であることを子どもたちと共に共有します。そのうえで、改めて「なぜ、アフリカ州では児童労働がなくなるのか」という問いをなげかけます。ここでは、授業者が用意した次の資料を活用したり、アフリカ州について見聞きした経験を思い出したりして考察するでしょう。

- ・アフリカ州で使用されている言語の主題図
- ・アフリカ州の産業別割合のグラフ
- ・アフリカ州の地形・雨温図
- ・アフリカ州における内戦の歴史年表

- ・アフリカ州には英語やフランス語、ポルトガル語など、ヨーロッパの国々の言語を話す国が多い。かつて植民地支配されていたと聞いたことがある。それが、児童労働の原因につながるかもしれない
- ・アフリカ州の産業別割合を見てわかるように、第一次産業を主な産業としている国が多い。カカオ農園の映像でもわかるように、農業はあまり儲からないのではない
- ・砂漠や荒野が広がるイメージだったが、縦に長い大陸だから気候も多様だ。地域によって気候の差があって自然環境も違うだろうから、経済の格差もあるかもしれない。人が住みやすい場所や貿易をしやすい場所がはっきりしている

- ・1955年頃から現在までアフリカ州の各地で内戦や紛争が起こり続けている。一体何が原因で内戦が行われているのだろうか。きっと、そのような国は特に貧しく、子どもも働かなければならないだろう
  - ・都市部は衛生的にも整備されているが、それ以外の場所は、清潔な場所とは言えない。様々な病気が蔓延していると聞いたことがある。病気で働けなくなったら、生きていけない。だから、子どもも働いて家計を助けている
- など

考察や予想を語り合う中で、授業者は、①歴史・文化、②経済・貿易・資源、③気候・自然環境、④紛争（内戦）・政治の四つの視点に絞りながら黒板にまとめていきます。

次時より4人グループで一人一つの視点を調査するように分担し、活動を始めることを伝えます。担当する視点以外にも調査したいと申し出た子どもに対しては、自由な視点で調査をしてもよいこととします。

## (3) それぞれの調査活動の視点から、問いに対して、自分の考えをもつ（2時間）

資料を探すのが困難であったり、苦手な子どももいたりすることが予想されます。そこで、授業者は、各視点の資料をあらかじめ用意しておき、活用してもよいことを伝えます。用意した資料を活用するかどうかは、それぞれの子どもの判断に委ねます。調査活動の最後の15分間は、同じ視点ごと集まり、考えを共有し、一人では見いだせなかった考えにふれる時間を設定します。以下のような調査結果が、それぞれの視点から見いだされることでしょう。

### ①歴史・文化

- ・アフリカ州の国々の国境が直線的なのは、ヨーロッパ諸国に植民地支配されていた時代に、国境が緯度や経度を基準に人為的に設定されたからだ
- ・人為的に国境が引かれたので、いやなく民族が分断されてしまった国がある
- ・ヨーロッパの国を始めとするいくつかの国々が資源の供給地や市場として植民地支配を進めていった
- ・宗主国の消費者にとって都合のよい商品作物を栽培するための大規模な農園が作られた。アフリカ諸国は原料を安く売り、加工された製品を

高く買い取らされた

- ・特に 16 世紀～18 世紀には、欧米諸国が公立的な労働力を確保する手段として、奴隷貿易が行われていた

## ②経済・貿易・資源

- ・カカオ豆やコーヒー豆などの一つの一次産品が輸出品の大きな割合を占めているので、経済が不安定である
- ・天候不良や価格の急激な値下がりによって、その国の経済状況が悪化することがある
- ・栽培された輸出品の価格を決める際に、先進国の利益が優先されており、労働者に適切な対価が払われずに、不平等な貿易が行われている現状がある
- ・豊かな鉱産資源があるにもかかわらず、利益を上げられないでいる
- ・鉱産資源を求めて、先進国の企業が進出している。その一方で、国内製造業の衰退や現地の労働者の失業率の上昇を招いている

## ③気候・自然環境

- ・アフリカ州は、広大な大陸であり、国や地域によって自然環境が大きく異なる。自然環境が異なることで、採れる鉱産資源や農産物に偏りがあるため、その国だけの力では立ちゆかない問題がある
- ・サハラ砂漠を隔てて南北に分けると、北の国は比較的豊かだが、南の国は貧しい
- ・内陸国が多く、輸送用道路や空港などが整備されていない。アフリカ州の内陸国は経済的に貧しい状況の国が多い
- ・沿岸部の国は、比較的経済が潤っている国がある。海洋貿易がしやすいからだと考えられる

## ④紛争（内戦）・政治

- ・アフリカ州の紛争マップを見ると、アフリカ州の各地で紛争が勃発していることがわかる
- ・民族同士の争いも絶えない。その国からの独立を求めて武装し、政府と戦っている。裏にはテロ組織が手を引いているケースもあるようだ
- ・内戦や干ばつ被害によって国を追われた難民も非常に多い。UNHCR の報告によると、ソマリアでは 136 万人もの難民が存在する
- ・アフリカ州の政治が不安定で、政治的混乱が各地で起こっている。中には汚職と腐敗まみれの国も存在している

など

(4) 調査した内容を共有し、問いに対して、それぞれの視点の関連性を見いだしながら語り合う  
(2 時間：本時はその 2)

4 人グループで互いの調査内容や児童労働問題を取り巻く社会的事象を関連させながら、「なぜ、アフリカ州では児童労働がなくなるのか」という問いに対するそれぞれの考えを語り合い、共有していくことでしょう。

- ・欧米諸国による植民地支配は、現在はなくなったが、依然としてアフリカ州は資源の供給地であり、対等な貿易がなされているとは言えない。そのような不平等な関係では、賃金の安い子どもを働かせることで利益を上げるしかない
- ・植民地支配によって民族が分断された歴史的な背景が原因となり、紛争が絶えない地域である。そのような政治状況では、経済を立て直すことは困難であり、子どもたちに教育を受けさせるまでの余裕が国にもない
- ・多くの人に適切な教育が施されていないので、経済を立て直す方法や利益を上げる知識を備えている人が少ない。豊かな鉱産資源や豊富な労働力をうまく利用できないでいる
- ・内陸の国へ物資を運ぶ輸送手段が整備されていなかったり、国同士の連携がほとんどなかったりするため、一部の国だけが経済的に発展している。格差は開く一方だ。そうになると、単純で危険な労働を貧しい国の子どもに任せるだろう
- ・厳しい気候や自然環境の国は、干ばつ被害によって難民が増加している。国が対処しようにも内政が不安定なために、対策が取れない。国が貧しいのであればそこに住む大人たちも貧しいため、最終的には子どもまでもが働かないと生きていけない
- ・多数の民族が存在し、それぞれの文化も異なるため、地域を統合する組織をつくっても、足並みがそろわない。格差はますます開く一方だ
- ・アフリカ州に対する先進諸国や企業のかかわりが自国の利益を優先するものが多いため、経済状況がよくなっていかない。さらに、先進国の技術を伝えられたとしても、技能や知識のない現地の人には使いこなせない。子どもたちが教育を受けられていないことが問題の根本にあるのではないか

など

次に全体で考えを共有します。4 人グループで語られたように関連性についての発言がなされて

いくことでしょう。そこで、授業者は、子どもたちに「児童労働の解決に向けての一手をどこにうつか」と問いかけます。ここまでの学習で関連性を見いだした子どもたちは、次のような対話をす

### <人材育成・教育>

- ・そもそも貧困であることに大きな問題がある。国が経済的に豊かになることが、児童労働を解決する近道だろう。お金が増えれば、子どもが働く必要はない
- ・一時的な豊かさを求めても解決しないのではないか。国が豊かであり続けることが大切だ。それには、国の経済を支える人材を育成しなければならない
- ・優秀な人材を育成するためには学校教育が必要不可欠だ。先進諸国の人たちと同じ知識や技術をもつ人材が育てば、豊かな資源を活かすことができる

### <先進国の支援>

- ・アフリカ州の力のみでは、学校も作ることができず、高度な技術も習得できない。先進諸国の手助けが絶対に必要だ。しかし、その方法が難しい。間違った援助や協力は逆効果になるかもしれない
- ・その国のみの力では児童労働問題はなくなるらない。教育の大切さはわかるが、学校を建設するだけの予算がない。それならば、先進諸国がその費用を負担しなければならないだろう。その延長で、国同士の経済的なつながりをつくることのできたらよい

### <経済のしくみ>

- ・このままアフリカ州が発展していっても、沿岸部の国と内陸の国では経済格差が広がっていくと考えられる。内陸の国へ物資を安全に運ぶためのインフラ整備が急がれる
- ・モノカルチャー経済が一番の問題だ。結局は先進諸国の利益が優先されている。平等で公平な貿易が広がらなければならないだろう

### <平和な国家・地域>

- ・内戦や紛争が絶えず勃発するような国の状況が解決されなければ、平和は訪れない。平和であることが大前提ではないだろうか。内戦や紛争解決の手だてをうつことが最優先だ
- ・アフリカ州の国々が協力し合うことができる組

織づくりが必要だ。例えばEUのような経済的な協力体制があれば豊かさを分配できるかもしれない。経済的に豊かな国にとっても近隣の国の経済状況が改善したほうがよいだろう

など

授業者は、子どもたちの考えが可視化しやすいように、人材育成・教育、先進国の支援、経済のしくみ、平和な国家・地域の四点に分類しながらまとめていきます。授業の最後に記入する「追求の記録」には、本時を通して考えたことを書くように促します。

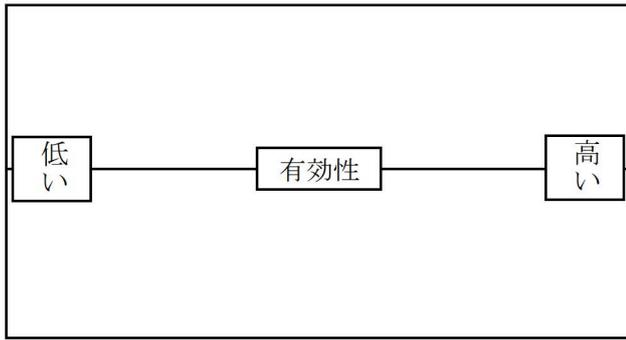
- ・児童労働問題の原因の根本は貧困だ。しかし、その貧困は、私たち先進諸国のかかわりが関係している。歴史では植民地支配、現在では不平等な貿易である。モノカルチャー経済もその国が好きでそうしているわけではないことがわかった。私たちに何かできることはないのか
- ・児童労働問題の一番の原因は、教育が受けられないことだ。教育を受けていない子どもたちが親になっても知識も技術もないため貧困からは抜け出せず、その子どもにも教育を受けさせないだろう
- ・仮に児童労働がなくなれば、国は経済的に豊かになっていく可能性が高い。先進国との対等な関係も築けるかもしれない
- ・どのようにしたら児童労働を減らすことができるのだろうか。たくさん学校を作るだけでは、解決にはならないだろう。問題を改善することは簡単ではない

など

### (5) 題材をふり返り、これからのアフリカ州に対して自分たちにできることを考える（1時間）

ここまでの学習を通して、「追求の記録」には、「先進諸国がどのようにかかわったらよいのだろうか」や「私たちにできる手だてはないのか」という考えが記されていることでしょう。その感想の一部を紹介し、「児童労働を減らすために、私たちができるアフリカ州に対して自分たちにできることを考えてみよう」と提案します。子どもたちに四色の付箋を配付し、付箋にその手だてやかかわり方、協力の方法を一つずつ記入していきます。四色の付箋には色ごとに、個人ができること、国ができること、企業ができること、その他、と分けて記入するように伝えます。記入を終えたら、

4人グループで以下のような表を用いて、あてはまると思う部分に付箋を貼っていきます。



子どもたちは以下のような発言をしながら、付箋を分類していくことでしょう。ここでは、厳密に分類することが目的ではなく、「誰（どこ）ならできそうか」「考えた手だてが本当に有効かどうか」などについて、語り合うことができればよいと考えています。

- ・個人としてできることは、募金をすることやその地域のことをよく知ること、今すぐにでもできそう
  - ・フェアトレード商品を扱うことは、いろいろな企業で取り組んでいるし、私たちもそのような商品を購入することで協力できそう
  - ・現地に行って、一緒に活動することもできるかもしれない。経済的な支援だけでなく、多くの人を派遣する支援もある。どちらがより有効なのだろう
  - ・NGO 団体は、国や企業なのか個人なのか。支援を主とする組織づくりもあるかもしれない。その場合は、どこに分類されるのだろう
  - ・先進諸国の企業が進出するのは、アフリカ州にとって有効だと考えられるが、場合によってはアフリカ州の産業発展の妨げにもなるかもしれない
  - ・絶対に有効であると言える協力はないかもしれない。相手のことをよく知ったうえで、その国にあった協力やどのような支援や方法を聞く必要があるそう
- など

最後に、本題材において学んだことを「追求の記録」にまとめます。アフリカ州の児童労働問題を取り巻く社会的事象の関連性や、問題に対しての自分の考えを記し、授業を閉じます。

- ・アフリカ州は貧しい地域としか思っていなかったが、豊富な資源をもつ豊かな国であることがわ

かった。しかし、これから先進諸国がどのようにアフリカ州にかかわっていくかが重要だ。植民地時代のような資源の供給地や市場でしかアフリカ州とかわることができなかつたら、貧困からは抜け出せないだろう

- ・日本から遠く、私にはあまり関係のない場所だと思っていたが、同じ年代の子どもたちが当たり前のように労働をしていることに驚いた。貧困を背景とする児童労働問題はその国だけでは決して解決できない。世界全体で取り組むべき深刻な問題であることを認識して、アフリカ州の発展を支えていかなければならない
  - ・教育を受けることができないということが、その国の経済発展にまで影響を及ぼしている。児童労働を減らすことで、その国の経済的な成長を促すことができそう。そのためには、経済支援だけでなく、適切な教育を受ける環境づくりが急務だろう。これからは、いろいろな NGO 団体の活動に協力していきたい
- など